

第1章 総則

- (名称)
第1条 この法人は、特定非営利活動法人 以和貴という。
- (事務所)
第2条 この法人は、主たる事務所を大阪府吹田市に置く。
- (目的)
第3条 この法人は、障がいを持つ人々や高齢者が地域で自立して健康で文化的に生活していける社会の実現を図るため、生活介護・就労移行支援・就労継続支援B型の実施や障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（以下、「障害者総合支援法」という。）に基づく相談支援事業及び児童福祉法に基づく相談支援事業や援助活動を行い、社会全体の利益の増進に寄与することを目的とする。
- (活動の種類)
第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、特定非営利活動促進法第2条別表1号（保健、医療又は福祉の増進を図る活動）を行う。
- (事業の種類)
第5条 この法人は、第3条の目的を達成するため、次に掲げる種類の特定非営利活動を行う。
① 障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業
② 障害者総合支援法に基づく地域生活支援事業
③ 障害者総合支援法に規定する特定相談支援事業
④ 障害者総合支援法に規定する一般相談支援事業
⑤ 児童福祉法に規定する障害児相談支援事業
⑥ 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律に規定する精神障害者社会復帰施設（精神障がい者地域生活支援センター）を運営する事業
⑦ 障がい者及び高齢者の文化事業
⑧ 機関紙の発行
⑨ 介護保険法に基づく居宅介護支援事業・居宅サービス事業・介護予防サービス事業
⑩ 障がい福祉講座の開始
⑪ その他、本法人の目的を達成するために必要な事業

第2章 会員

- (種別)
第6条 この法人の会員は、次の2種類とし、正会員をもって特定非営利活動促進法上の社員とする。
(1) 正会員 この法人の目的に賛同して入会した個人又は団体
(2) 賛助会員 この法人の事業を賛助するために入会した個人又は団体
- (入会)
第7条 会員として入会しようとするものは、入会申込書を理事長に提出し、理事長の承認を得なければならない。理事長は、会員の申込みについては、正当な理由がない限り入会を認めるものとするが、入会を認めない場合は、理由を付した書面をもって本人にその旨を通知しなければならない。
- (入会金及び会費)
第8条 会員は、総会において別に定める入会金及び会費を納入しなければならない。
- (退会)
第9条 会員は、退会届を理事長に提出し、任意に退会することができる
2 会員が次の各号のいずれかに該当する場合には退会したものとみなす。
(1) 本人が死亡し、又は会員である団体が消滅したとき。
(2) 会費を1年以上滞納したとき。

- (除名)
- 第10条 会員が、次の各号のいずれかに該当する場合には、総会において、正会員総数の3分の2以上の議決により、これを除名することができる。ただし、その会員に対し、議決前に弁明の機会を与えなければならない。
- (1) この定款に違反したとき。
 - (2) この法人の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき。

- (抛出金品の不返還)
- 第11条 会員が納入した入会金、会費及びその他の抛出金品はその理由を問わず、これを返還しない。

第3章 役員

- (種別)
- 第12条 この法人に、次の役員を置く。
- (1) 理事 3人以上
 - (2) 監事 1人以上
- 2 理事のうち、1人を理事長、1人を副理事長とする。
 - 3 理事及び監事は、総会において選任する。
 - 4 理事長、副理事長は理事の互選により定める。
 - 5 役員のうちには、それぞれの役員について、その配偶者若しくは三親等以内の親族が1人を超えて含まれ、又は当該役員並びにその配偶者及び三親等以内の親族が役員総数の3分の1を超えて含まれることになってはいけぬ。
 - 6 監事は、理事又はこの法人の職員を兼ねてはならない。

- (職務)
- 第13条 理事長はこの法人を代表し、その業務を統括する。
- 2 副理事長は、理事長を補佐し、理事長に事故があるとき又は理事長が欠けたときは、その職務を代行する。
 - 3 理事は、理事会を構成し、この定款の定め及び総会の議決に基づき、この法人の業務を執行する。
 - 4 監事は、次に掲げる職務を行う。
 - (1) 理事の業務執行の状況を監査すること。
 - (2) この法人の財産の状況を監査すること。
 - (3) 前2号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実があることを発見した場合には、これを総会又は所轄庁に報告すること。
 - (4) 前号の報告をするために必要がある場合には、総会を招集すること。
 - (5) 理事の業務執行の状況又はこの法人の財産の状況について、理事に意見を述べること。

- (任期)
- 第14条 役員は任期は2年とする。但し、再任を妨げない。
- 2 補欠又は増員により選任された役員は、前任者又は現任者の残任期間とする。
 - 3 前2項の規定にかかわらず、任期の末日において後任の役員が選出されていないときは、その任期を、任期の末日後、最初の総会が終結するまで延長する。

- (欠員補充)
- 第15条 理事又は監事のうち、その定数の3分の1を超える者が欠けたときは、遅滞なくこれを補充しなければならない。

- (解任)
- 第16条 役員が次の各号のいずれかに該当するときは、総会の議決により、これを解任することができる。但し、理事会において、その役員に対し、議決の前に弁明の機会を与えなければならない。
- (1) 心身の故障のため、職務の執行に堪えられないと認められるとき。
 - (2) 職務上の義務違反その他役員としてふさわしくない行為があったとき。

- (報酬等)
- 第17条 役員は、その総数の3分の1以下の範囲内で報酬を受けることができる。
- 2 役員にはその職務を執行するために要した費用を弁償することができる。
 - 3 前2項に関し必要な事項は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

第4章 総会

(種別)

第18条 この法人の総会は、通常総会と臨時総会とする。

(構成)

第19条 総会は、正会員をもって構成する。

(権能)

第20条 総会は、以下の事項について議決する。

- (1) 定款の変更
- (2) 解散
- (3) 合併
- (4) 事業計画及び活動予算並びにその変更
- (5) 事業報告及び活動決算
- (6) 役員を選任又は解任、職務及び報酬
- (7) 入会金及び会費の額
- (8) 長期借入金その他新たな義務の負担及び権利の放棄
- (9) 事務局の組織及び運営
- (10) その他運営に関する重要事項

(開催)

第21条 通常総会は、毎年1回開催する。

2 臨時総会は、次の各号のいずれかに該当する場合に開催する。

- (1) 理事会が必要と認めたとき。
- (2) 正会員の5分の1以上から会議の目的を記載した書面によって開催の請求があったとき。
- (3) 監事が第13条第4項第4号の規定により招集したとき。

(招集)

第22条 総会は、理事長が招集する。但し、前条第2項第3号の規定による場合は、監事が招集する。

- 2 理事長は、前条第2項第2号の規定による請求があった場合は、その日から30日以内に臨時総会を開かなければならない。
- 3 総会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面をもって、少なくとも5日前までに通知しなければならない。

(議長)

第23条 総会の議長は、その総会において出席した正会員の中から選出する。

(定足数)

第24条 総会は、正会員の2分の1以上の出席がなければ開会することができない。

(議決)

第25条 総会における議決事項は、第22条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

- 2 総会の議決事項は、この定款で定めるもののほか、出席正会員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところとする。
- 3 総会の議決について、特別な利害関係を有する正会員は、その議決に加わることができない。

(書面表決等)

第26条 やむを得ない理由のため、総会に出席できない正会員は、あらかじめ書面をもって表決し、又は他の正会員を代理人として表決を委任することができる。

- 2 前項の場合における前2条の規定の適用については、その正会員は、総会に出席したものとみなす。
- 3 総会の議決について、特別な利害関係を有する正会員は、その議決に加わることができない。

(議事録)

第27条 総会の議事については、次に掲げる事項を記載した議事録を作成し、これを保存しなければならない。

- (1) 日時及び場所
 - (2) 正会員の現在数
 - (3) 出席した正会員の数（書面表決者及び表決委任者については、その旨を表記すること。）
 - (4) 審議事項及び議決事項
 - (5) 議事の経過の概要及びその結果
 - (6) 議事録署名人の選任に関する事項
- 2 議事録には、その会議において出席した正会員の中から選任された議事録署名人2名以上が、議長とともに署名押印しなければならない。

第5章 理事会

(構成)
第28条 理事会は、理事をもって構成する。

(権能)
第29条 理事会は、この定款で別に定めるもののほか、次に掲げる事項を議決する。

- (1) 総会に付議するべき事項
- (2) 総会の議決した事項の執行に関する事項
- (3) その他総会の議決を要しない業務の執行に関する事項

(開催)
第30条 理事会は、次の各号のいずれかに該当する場合に開催する。

- (1) 理事長が必要と認めたとき。
- (2) 理事総数の3分の1以上の理事から会議の目的を記載した書面によって開催の要求があったとき。

(招集)
第31条 理事会は理事長が招集する。

- 2 理事長は、前条第2号の規定による請求があったときはその日から15日以内に理事会を招集しなければならない。
- 3 理事会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面をもって、少なくとも5日前までに通知しなければならない。

(議長)
第32条 理事会の議長は、理事長が当たる。

(議決等)
第33条 この法人の業務は、理事の過半数をもって決する。

(議事録)
第34条 理事会の議事については、次に掲げる事項を記載した議事録を作成し、これを保存しなければならない。

- (1) 日時及び場所
- (2) 理事の現在数及び出席した理事の氏名（書面表決者については、その旨を明記すること。）
- (3) 審議事項及び議決事項
- (4) 議事の経過の概要及びその結果
- (5) 議事録署名人の選任に関する事項

2 議事録には、その会議において出席した理事の中から選任された議事録署名人2名以上が、議長とともに署名押印しなければならない。

第6章 資産、会計及び事業計画

(資産)
第35条 この法人の資産は、次の各号に掲げるものをもって構成する。

- (1) 財産目録に記載された財産
- (2) 入会金及び会費
- (3) 寄付金品
- (4) 財産から生じる収益

- (5) 事業に伴う収益
- (6) その他の収益

第 36 条 (資産の管理)
資産は理事長が管理し、その方法は、総会の議決を経て理事長が別に定める。

第 37 条 (経費の支弁)
この法人の経費は、資産をもって支弁する。

第 38 条 (事業計画及び予算)
この法人の事業計画及び予算は、理事長が作成し、総会の承認を得なければならない。これを変更する場合も同様とする。

第 39 条 (予備費の設定及び使用)
前条に規定する予算には、予算超過又は予算外の支出に充てるため、予備費を設けることができる。
2 予備費を使用するときは、理事会の議決を経なければならない。

第 40 条 (暫定予算)
第 38 条の規定にかかわらず、やむを得ない理由により予算が成立しないときは、理事長は、理事会の議決を経て、予算成立の日まで前年度の予算に準じ収益費用を講じることができる。
2 前項の収益費用は、新たに成立した予算の収益費用とみなす。

第 41 条 (事業報告書及び決算)
理事長は、毎事業年度終了後 3 ヶ月以内に、事業報告書、財産目録、貸借対照表、活動計算書を作成し監事の監査を経て、総会の承認を得なければならない。

第 42 条 (長期借入金)
この法人が資金の借入れをしようとするときは、その事業年度の収益をもって償還する短期借入金を除き、総会の議決を経なければならない。

第 43 条 (事業年度)
この法人の事業年度は、毎年 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終わる。

第 7 章 事務局

第 44 条 (設置)
この法人の事務を処理するため、事務局をおく。
2 事務局には、事務局長その他の職員を置くことができる。
3 事務局の職員は、理事長が任免する。

第 45 条 (書類及び帳簿の備え置き)
事務所には、特定非営利活動促進法第 28 条に規定される書類のほか、次に掲げる書類を常に備えておかななければならない。
(1) 会員名簿及び会員の異動に関する書類
(2) 収益、費用に関する帳簿及び証拠書類

第 8 章 定款の変更及び解散

第 46 条 (定款の変更)
この定款の変更は、総会において正会員総数の 2 分の 1 以上が出席し、その出席者の 4 分の 3 以上の議決を経なければならない。

第 47 条 (解散)
この法人は、次に掲げる事由によって解散する
(1) 総会の決議
(2) 目的とする特定非営利活動に係る事業の成功の不能

- (3) 正会員の欠亡
 - (4) 合併
 - (5) 破産手続開始の決定
 - (6) 所轄庁による設立の認証の取消し
- 2 総会の決議により解散する場合は、正会員総数の4分の3以上の議決を経なければならない。

第48条 (残余財産の処分)
解散後の残余財産は、特定非営利活動促進法第11条第3項の規定に掲げるものうち、総会で議決したものに帰属させるものとする。

第9章 公告の方法

第49条 (公告)
この法人の公告は、官報に掲載して行う。ただし、特定非営利活動促進法第28条の2第1項の規定による貸借対照表の公告については、内閣府NPO法人ポータルサイト（法人入力情報欄）に掲載して行う。

第10章 雑則

第50条 (委任)
この定款の施行について必要な事項は、定款で定めるほか、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

附則

1 この定款は、この法人の成立の日から施行する。

2 この法人の設立時の入会金及び会費は、第8条の規定にかかわらず、次の各号に掲げるものとする。

- | | | | | | |
|-----|------|-----|-----|-----|-----|
| (1) | 正会員 | 入会金 | 1万円 | 年会費 | 1万円 |
| (2) | 賛助会員 | 入会金 | 3千円 | 年会費 | 7千円 |

3 この法人の設立当初の役員は、第12条第3項及び第4項の規定にかかわらず、次に掲げるとおりとし、その任期は、第14条第1項の規定にかかわらず、2001年6月30日までとする。

- | | | |
|-----|------|--------|
| (1) | 理事長 | 氏名小西勝之 |
| (2) | 副理事長 | 氏名平井剛 |
| (3) | 理事 | 氏名小西篤子 |
| (4) | 監事 | 氏名魚住隆太 |

4 この法人の設立初年度の事業計画及び予算は、第38条の規定にかかわらず、設立總會の定めるところによる。

5 この法人の設立初年度の事業年度は、第43条の規定にかかわらず、成立の日から2001年3月31日までとする。

- 附則 この定款は、平成15年6月13日から施行する。
附則 この定款は、平成18年9月6日から施行する。
附則 この定款は、平成20年11月29日から施行する。
附則 この定款は、平成21年4月1日から施行する。
附則 この定款は、平成21年8月20日から施行する。
附則 この定款は、平成23年5月1日から施行する。
附則 この定款は、平成25年1月29日から施行する。
附則 この定款は、平成26年4月1日から施行する。
附則 この定款は、平成30年6月25日から施行する。
附則 この定款は、令和7年年6月26日から施行する。

特定非営利活動法人 以和貴
理事長 黒田 進

